

各機関の役割と支援内容の明確化

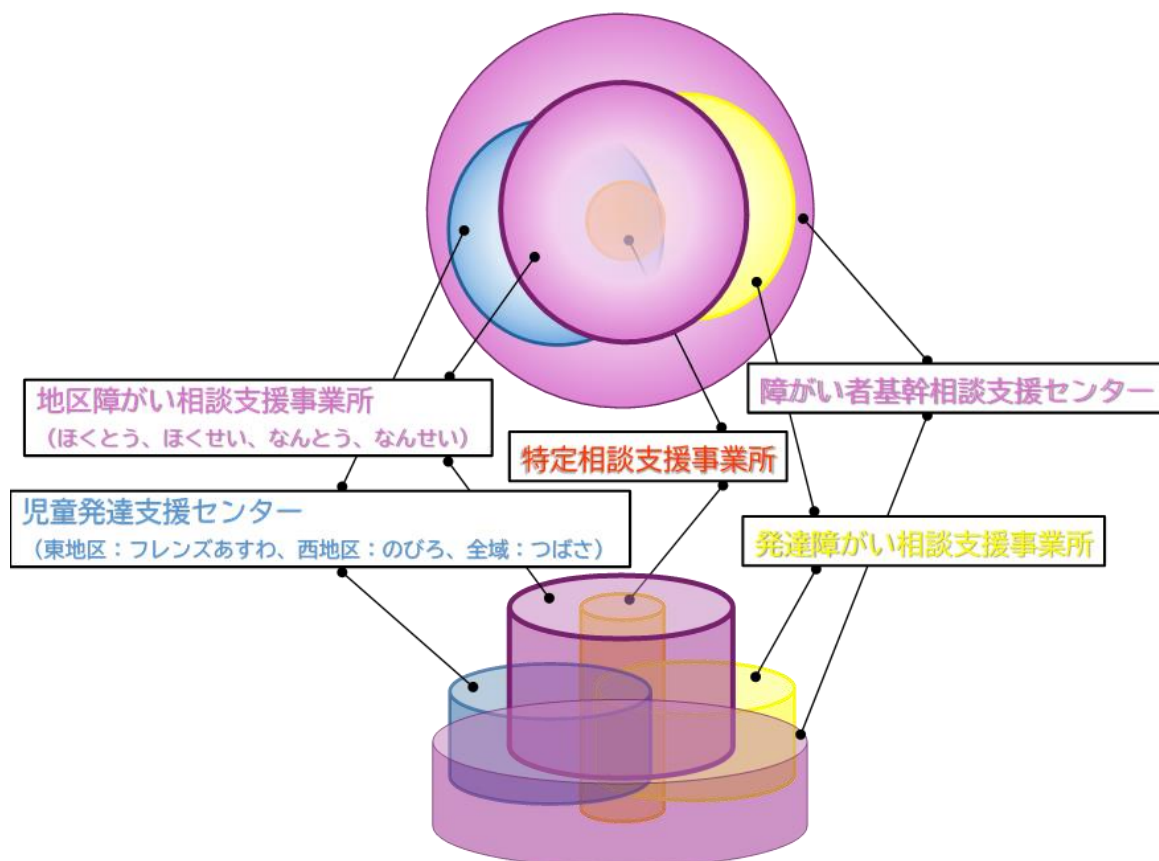
機関名	役割・機能
障がい者基幹相談支援センター	<ul style="list-style-type: none"> ・ 地区障がい相談支援事業所が社会資源に繋ぐことが難しい場合などの後方支援を担う。 ・ 他市からの転入や他市へ転出する場合などの広域的な相談対応を行う。 ・ 相談支援専門員の人材育成を行う。
地区障がい相談支援事業所	<ul style="list-style-type: none"> ・ 障がいのある方の地域における身近な相談窓口として、生活相談などに対応する。 ・ 必要に応じて、福祉サービスへ繋ぐ。 ・ 特定相談支援事業所の後方支援を担う。
発達障がい相談支援事業所	<ul style="list-style-type: none"> ・ 発達障がいに特化した相談に対応する。 ・ 必要に応じて、福祉サービスへ繋ぐ。
特定相談支援事業所 (障害児相談支援)	<ul style="list-style-type: none"> ・ 福祉サービスを利用するこどもの利用計画を立て、園や学校などの関係機関と共有する。 ・ 児童館や習い事などのインフォーマルなサービスの提案も行う。
児童発達支援センター	<ul style="list-style-type: none"> ・ こどもの発達相談や成長の中の課題、不安などの相談に対応する。 ・ 必要に応じて、福祉サービスの提供により直接支援を行う。 ・ 家族支援や地域移行への支援も担う。
こども家庭センター	<ul style="list-style-type: none"> ・ 児童福祉と母子保健を一体化し、妊娠から出産、子育てに至るまでのこどもに関する相談のワンストップ窓口を担う。 ・ 母子保健分野では、母子手帳の交付から赤ちゃん訪問、乳幼児等の健診、幼児発達相談会などを行う。 ・ 専門的な関わりが必要と判断した際には専門的な機関に繋ぐ。
特別支援教育センター	<ul style="list-style-type: none"> ・ 地域の学校の通常学級に在籍するこどもの教育相談を担う。 ・ 教育相談は保護者からの直接依頼と学校から保護者に了解を得てからの依頼がある。 ・ 教員と一緒に関わり方を考える巡回指導、特別支援教育センターにて保護者と一緒に関わり方を考える 通級指導→通所指導 も行う。
特別支援学校	<ul style="list-style-type: none"> ・ センターの機能として、盲学校は視覚障がい、ろう学校は聴覚障がい、その他特別支援学校は地域の学校における特別支援学級や通級のこどもの教育相談の役割を担う。 ・ 盲学校では、週の半分を教育相談として実施している。
こども療育センター	<ul style="list-style-type: none"> ・ 医療機関として、診断と投薬を行い、外来診療の範囲で個別療育も行う。 ・ 県内の療育の中心として、体制づくりを考えることや先進的な療育の手法を取り入れることを担い、支援者向けの研修や指導などに取り組む。 ・ 集団療育により、保護者などに向けて外来講座や子育て講座を開催する。 ・ 県内全域を対象とした児童発達支援センターとして、小集団による通園療育を行い、本人支援、家族支援、地域支援を担う。

【多角的な視点から見た福井市における障がい相談支援体制について】

○対象者別に見た障がい相談支援体制



○相談者から見た障がい相談支援体制



○地理的に見た障がい相談支援体制

